

「実践キャリア実務士」教育課程から始める 到達目標達成度評価表（ルーブリック）による新たな質保証方法について

一般財団法人全国大学実務教育協会

1. 背景・理由

高等教育機関における学修成果の質保証が求められ、本協会の資格に対しても、学修成果を質保証し、社会的通用性を高めることが必要になってきた。本協会では、教育課程の質保証を行っているが、一人ひとりの教育課程修了者の学修成果について質保証するに至っていない。そこで、「実践キャリア実務士教育課程」の資格を対象に、学修成果を単位取得による量的データと到達目標達成度評価表による質的データによる質保証で一人ひとりの学生を総合的に評価して、資格の認定を行う。

2. 学修の質保証の方法

実践キャリア実務士の教育課程の学修成果を総合的に評価するために、量的データと質的データで総合的に評価することが求められる。量的データによる評価としては、会員校の授業担当者による成績評価をこれにあててきた。

今回、質的データによる評価として、ルーブリック^(注1)に基づく実践キャリア実務士到達目標達成度評価表「これまでの学修成果の評価と今後の私のキャリア」(p.6～9)を導入する。到達目標をもとにしたルーブリックを活用し、学生が実践キャリア実務士教育課程の総合的なまとめの時間で到達目標達成度評価表により自己評価する。その後、学生の自己評価を参考にして教員が到達目標の到達度を総合的に評価して、資格の可否を認定する。

実践キャリア実務士の資格取得の要件

量的データによる評価	質的データによる評価
実践キャリア実務士 教育課程 16 単位以上	到達目標達成度評価表 (ルーブリックによる評価) の 教員総合評価 C 評価以上

各大学・短期大学が到達目標達成度評価表の評価結果を協会に提出し協会が資格を認定する。また、協会が質保証の実情を把握し、修了生の一人ひとりの学びの質を保証して学修成果を担保するとともに、総合的に資格の質保証を行い、資格の社会的通用性を高める。(p.3)

到達目標達成度評価表の質的データによる評価を平成 30 (2018) 年度から義務化すること、そのために、次年度から試行を開始する。

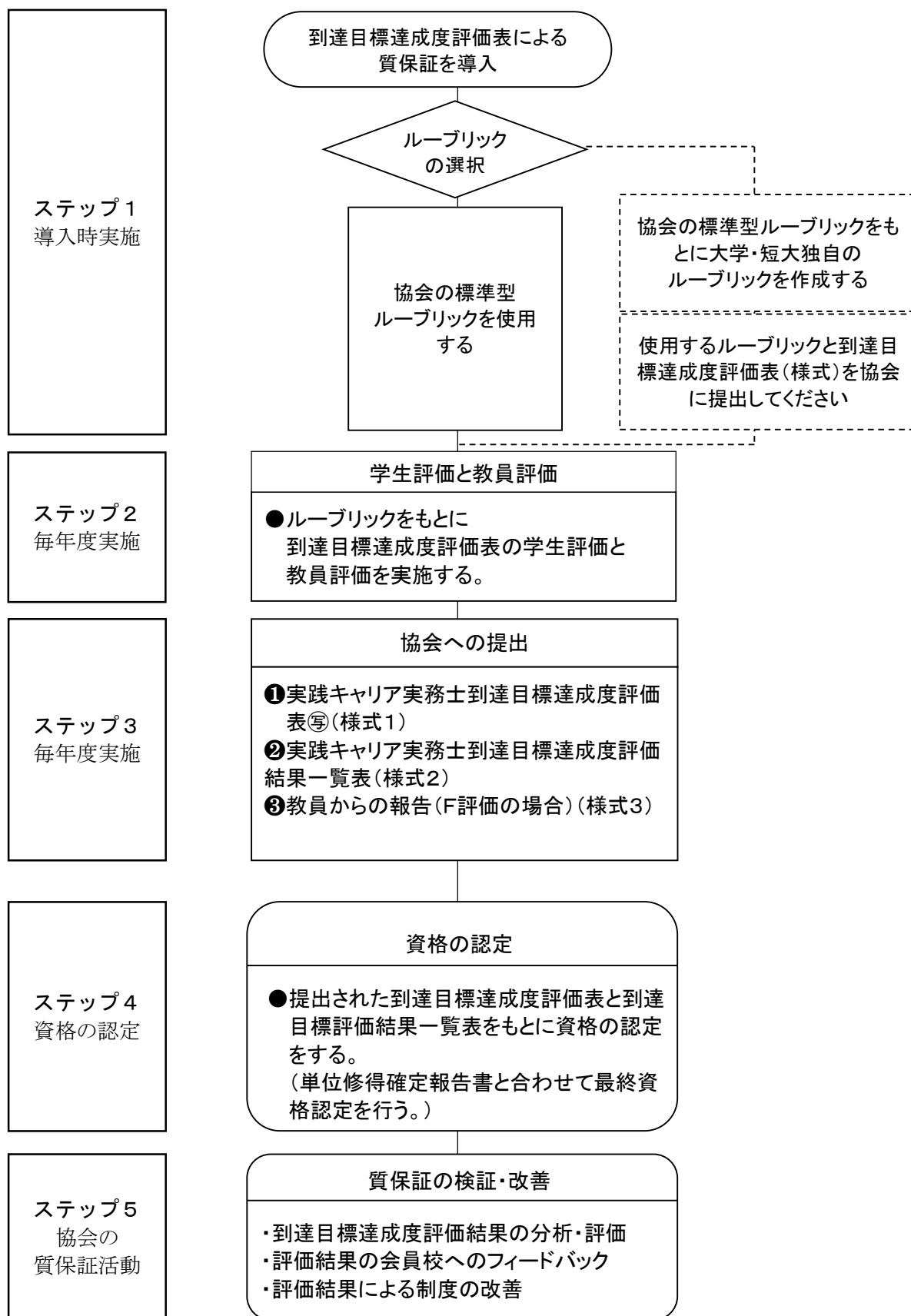
注1：ルーブリック (rubric) とは、「目標に準拠した評価」のための「基準」つくりの方法論であり、学生が何を学習するのかを示す評価規準と学生が学習到達しているレベルを示す具体的な評価基準をマトリクス形式で示す評価指標である。(中教審大学教育部会 2011 年 12 月 9 日 説明資料より)

3. 到達目標達成度評価表の運用のしかた

(1) 到達目標達成度評価表について次のステップで運用

STEP 1	導入時の実施
<p>到達目標達成評価表による質保証を導入することを決定する。ルーブリックを活用した到達目標の達成度を評価するにあたり、原則として協会の標準型ルーブリック (p.5) を使用する。</p> <p>大学が独自のルーブリックを開発する場合、事前に協会と相談し、独自開発したルーブリックと到達目標達成度評価表を協会に提出する。</p>	
STEP 2	毎年度実施
<p>実践キャリア実務士教育課程の総合的なまとめの授業 (例えば、「総合的実践実務」で実施するか、あるいは授業外の総合的なまとめの時間で実施するか) を決める。</p> <p>ルーブリックをもとに学生による到達目標達成度評価の学生の自己評価を記入させる。このとき、学修ポートフォリオや演習課題や授業の課題の結果、体験学修の成果など、具体的な事実をもとにと到達目標ごとの自己評価 (S~F) と「評価の根拠」を記入させる (p.6~9 様式 1)。最後に、教員による総合的な評価 (S~F) を記入する (p.10 様式 2)。</p> <p>なお、到達目標達成度評価結果に関する学生との面談^(注1)を行うことで、学生の内省をより深めることができる。さらに到達目標達成度評価表に加えて修了レポート^(注2)を課することも有効である。</p> <p>注1：到達目標達成度評価結果に関する学生との面談</p> <p>到達目標達成度評価表の学生の記入と教員の記入が完成したら、評価結果をもとに学生と教員の面談の機会をもつことも質保証のために有効である。教員の評価能力を向上させること、授業内容を改善することなどに活用できる。</p> <p>注2：修了レポート</p> <p>学修ポートフォリオ、演習課題、授業の課題、体験学修の成果などをもとに、ルーブリックに対応した修了レポートを書かせることが有効である。これによって、学生が具体的な事実をもとに省察して自己評価しているかどうかを検証することができる。</p>	
STEP 3	毎年度実施
<p>到達目標達成度評価表をもとに、「到達目標達成度評価結果一覧表」 (p.10 様式 2) を作成する。その際、到達目標達成度の教員評価が C 以上の学生について、合否欄に「合」を記入する。教員評価が F 評価の学生について資格認定のための補習授業を実施した場合、補習授業の対象学生と実施した補習授業の概要を「教員からの報告」 (p.11 様式 3) に記入する。</p> <p>また、資格の質保証体制をよりよいものに改善し成果をあげるために、何かご意見やご提案があれば「教員からの評価方法に関するご意見」に記入してください。 (p.12)</p> <p>「実践キャリア実務士到達目標達成度評価表」⑤、「到達目標達成度評価結果一覧表」、「教員からの報告」、「教員からの評価方法に関するご意見」を協会に提出する。</p> <p>なお、授業外の総合的なまとめの時間を設けて実施した場合には、学生への通知文書等を「到達目標達成度評価一覧表」に添付して提出する。</p>	
STEP 4	毎年度実施
<p>協会では、提出していただいた到達目標達成度評価表の個表と到達目標達成度評価結果一覧表をもとに資格の認定をする。(単位修得確定報告書と合わせて最終資格認定を行う。)</p>	
STEP 5	協会の質保証活動
<p>協会では、結果を分析・評価して、適宜、評価結果を会員校へフィードバックするとともに、制度の改善に活かす。</p>	

到達目標達成度評価表による質保証の流れ



4. ルーブリック

4-1. ルーブリックで評価する4つの到達目標

実践キャリア実務士の到達目標は、大きく「キャリア・教養分野」と「総合的実践実務分野」に分かれる。それぞれ到達目標を設定しているが、履修生に評価させるに当たり、評価基準として改めて4つの到達目標にまとめ、その配分を設定した。これらの到達目標をもとに、次ページのルーブリックを作成した。

教育課程の分野	配分	能力の定義	実践キャリア実務士の到達目標
キャリア・教養			
①働く基礎能力	25%	職業生活および社会生活に必要なコミュニケーションなどの基礎能力を身につけ、それを就業場面で適切に発揮できる自己管理能力を備えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・職業生活・社会生活に必要なマナーやルールに沿った行動をとり、自らを律して、責任感をもって行動することができる。 ・職業生活・社会生活を通じて継続的に学びを続けて成長するために、自ら学びの目標を設定し、自らの行動に気づき、他人の指摘を受け止めて自己成長できる。 ・職業生活・社会生活に必要な理解力（読む・聞く力）や表現技術（文章表現・口頭表現）などの基本スキルを発揮できる。
②自分を知る力	25%	正課内・正課外の実践体験を省察し、自分の持ち前を発揮して、取り組むことの重要性を理解している。	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に調べ、多面的に考え、自ら問いを発して考察できる。 ・実践実務体験を通して、自分の能力や資質の特徴を捉えることができる。
③社会を知る力	25%	実社会とかかわる就業の実践体験で多様な人と対話ができる。そして、現場の仕事のニーズを自ら働きかけて捉えることの大切さを理解している。	<ul style="list-style-type: none"> ・広く社会に目を向けて問題意識を持ち、実社会と自らのキャリアを関連づけて考えることができる。 ・現代社会の問題を多面的に理解し、人に対する思いやりをもって、建設的に対話や議論ができる。
総合的実践実務			
④就業体験からキャリアを考える力	25%	総合的学修体験を通じて、自分の就業力について自ら気づいたことや他人から受けた評価からキャリアを考え、自分自身の能力開発の方向性を明確にすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・職業生活・社会生活のあり方を主体的に設計し、自らのキャリアに関する考えをもって、学びを継続することに価値を見出すことができる。 ・大学やこれまでの学修を通じて学んだ知識・スキル・態度を活かして総合的な課題解決ができる。 ・実践の場で多様な人と関わりをもって課題解決にすることに主体的にかかわり、成果と課題を明らかにすることができる。 ・実務実践の体験を通じて自分の能力の現状を理解し、職業生活・社会生活を通じて自らの能力を高める行動をとれる。

4-2. ルーブリック

評価基準 評価要素	Aランク (80~89点)	Bランク (70~79点)	Cランク (60~69点)
① 働く基礎能力 (25%)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の行動を律し、約束や時間を守り、社会生活に必要なマナーやルールに沿った行動をとっている。 ・自らの学びの目標を設定し、達成状況をもとに再設定し、改善を加える、PDCA サイクルを実行している。 ・自らの行動に対して、自ら気づき、他人からの指摘を適切に受け止め、次の行動に活かしている。 ・学びの体験や働く体験の中で、学修した基礎能力(理解力や表現技術など)を状況に合わせて柔軟に発揮している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・約束や時間を守り、社会生活に必要なマナーやルールに沿った行動をとっている。 ・自らの学びの目標を設定し、PDCA サイクルを理解し、達成状況をもとに再設定している。 ・自らの行動に対して、他人の指摘を受け止めている。 ・学びの体験や働く体験の中で、学修した基礎能力(理解力や表現技術など)を発揮している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・約束や時間を守り、社会生活に必要なマナーやルールに沿った行動をとれるよう努力している。 ・自らの学びの目標を設定し、PDCA サイクルを理解し、達成しようとして努力している。 ・自らの行動に対して、他人の指摘を受け止めるよう努力している。 ・学びの体験や働く体験の中で、学修した基礎能力(理解力や表現技術など)を発揮するよう努力している。
② 自分を 知る力 (25%)	<ul style="list-style-type: none"> ・問題に対して主体的に調べ、自ら問いを発し、省察して、課題を設定している。 ・実践の行動の中で、自分の能力や資質の特徴を理解し、能力を発揮し、高める努力をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題に対して誠実に調べ、省察し、課題を設定している。 ・実践の行動の中で、自分の能力を発揮し、高める努力をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題に対して誠実に調べ、省察し、課題を設定するよう努力している。 ・実践の行動の中で、自分の能力を発揮するよう努力している。
③ 社会を 知る力 (25%)	<ul style="list-style-type: none"> ・学修の現場で、社会的な観点をもって幅広い問題意識と協働意識をもって行動している。 ・現代社会の問題に積極的に取り組み、建設的な議論を重ねて、信頼される結果を出している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学修の現場で、問題意識と協働意識をもって行動している。 ・現代社会の問題に気づき、議論を重ねて結果を出している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学修の現場で、問題意識と協働意識をもって行動するよう努力している。 ・現代社会の問題に気づき、議論を重ねて結果を出すよう努力している。
④ 就業体験から キャリアを 考える力 (25%)	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的学修体験の実践の場で、これまでの学修成果を状況に合わせて柔軟に活用している。 ・実践の場で責任感をもって取り組み、周りを巻き込んで、活動を推進している。 ・実践の場で、年齢・性別・考え方の違う人と自ら進んで関わりをもって課題解決に向けた活動を行っている。 ・実践の活動を通じて、自らの能力開発の課題を発見し、自ら能力を高める行動をとっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的学修体験の実践の場で、これまでの学修成果を活用している。 ・実践の場で責任感をもって取り組み、周りの人とともに、活動を推進している。 ・実践の場で、年齢・性別・考え方の違う人と関わりをもって課題解決に向けた活動を行っている。 ・実践の活動を通じて、自らの能力開発の必要性を理解し、能力を高める行動をとっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的学修体験の実践の場で、これまでの学修成果を活用しようとして努力している。 ・実践の場で責任感をもって取り組み、周りの人とともに、活動を推進するよう努力している。 ・実践の場で、年齢・性別・考え方の違う人と関わりをもって課題解決に向けた活動を行うよう努力している。 ・実践の活動を通じて、自らの能力開発の必要性を理解し、能力を高める行動をとるよう努力している。

S ランク (90~100点) : A ランクを超えて非常に高い学修成果を達成したレベル。

実践キャリア実務士到達目標達成度評価表

到達目標達成度評価表とは、実践キャリア実務士の教育課程の一連の授業を受講して、この資格の到達目標を総合的に評価するための評価表です。これによって、個々の到達目標をどれだけ達成できたのかを確認します。その後、総合的な達成度を自己評価して、達成度をさらに高めるためにどのような課題が残されているのか、これからの学修の目標を明確にします。

到達目標達成度評価表の記入方法

1. 学生による学修成果の総合評価（自己評価）

（1）学修成果の総合評価

学生は、ルーブリックに示した①から④の目指すべき行動基準にしたがって学修成果を A～C で自己評価する。A 評価を大きく上回る場合を S 評価、C 評価に満たない場合を F 評価とする。

それぞれの評価の根拠について、ポートフォリオなどの学修プロセスを示す資料、学修成果を示す課題や成果物などをもとに記述する。学生は、各能力の評価結果を 25 点満点に換算して点数を記入する^注。各能力の評価結果の合計を「学修成果の総合評価」の欄の「学生の自己評価」に記入する。

点数をもとに次の表に対応した評価結果を S～F の該当評価結果に○を記入する。

評価結果のレベルと評価点の関係

S	A	B	C	F
100～90 点	89～80 点	79～70 点	69～60 点	59 点以下

注：換算方法は、評価結果の上の表を参考に当該大学が設定する。

（2）今後のキャリア

学生は、学修成果をもとに今後の自らのキャリアについて、どのような働き方をしたいか、そのためにどのような能力が必要かを記述する。

2. 教員による学修成果の総合評価

教員は学生の自己評価や総合的まとめ授業での学生の学修成果をもとに、総合的に学生の学修成果を評価して「教員の評価」の欄に記入する。点数および S～F の評価結果を記入する。

F 評価の場合、資格認定することはできない。

氏名		大学名 短大名		学部 学科	
----	--	------------	--	----------	--

実践キャリア実務士到達目標達成度評価表

「これまでの学修成果の評価と今後の私のキャリア」

氏名	大学名 短大名	学部 学科	
①働く基礎能力 (25%)		S・A・B・C・F	/25点
評価の根拠 (具体的な事実をもとに省察して記述する)			
②自分を知る力 (25%)		S・A・B・C・F	/25点
評価の根拠 (具体的な事実をもとに省察して記述する)			

③社会を知る力 (25%)	S・A・B・C・F	/25点
評価の根拠 (具体的な事実をもとに省察して記述する)		
④就業体験からキャリアを考える力 (25%)	S・A・B・C・F	/25点
評価の根拠 (具体的な事実をもとに省察して記述する)		

今後のキャリア (どのような働き方をしたいか・そのためにどのような能力が必要か)

教員による評価

／100点 S・A・B・C・F

実践キャリア実務士到達目標達成度評価結果一覧表

大学名 短大名		学部 学科		担当教員名	
実施形態 (いずれかに○)			授業内で実施 授業名()		
			授業外で実施		

No.	学生番号	氏名	学生自己評価				教員 総合評価	合/否	補習に より合
			到達目標ごとの評価						
1									
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									

教員からの報告

<補習授業によってF評価が合格になった学生の場合>

教員評価が F 評価の学生について資格認定のための補習授業を実施した場合、補習授業の対象学生と実施した補習授業の概要および一人ひとりの修了生の評価結果を記入してください。

大学・短大名	
学部学科	
担当教員名	

補習授業の対象学生(学生番号・氏名)

補習授業の概要

補習により F 評価の修了生が評価結果(C 以上)に対するコメント

教員からの評価方法に関するご意見

修了生全体の評価結果、資格の質保証の成果をあげるための意見や提案に関するコメントなどを書き込んでください。

本教育課程に関する意見・提案など

【参考】実践キャリア実務士ガイドライン 到達目標と具体的な学修目標

実践キャリア実務士教育課程の質保証方法のための到達目標達成度評価表におけるループリックにしたがって 実践キャリア実務士のガイドラインの「到達目標と具体的な学修目標」を次のように修正する。

(1) 到達目標

実社会における実践の場の課題解決学修を通して、職業生活・社会生活に対する問題意識を高め、自己理解を深める力を習得している。そして、自ら職業的・社会的に自立するための能力開発に取り組む学修態度を身につけている。

(2) 具体的な学修目標

【キャリア・教養分野】

自らのキャリアを考え、能力開発を行い、幅広い職業人として就業する上で必要な学修分野である。

①働く基礎能力

職業生活および社会生活に必要なコミュニケーションの基礎能力を身につけ、それを就業場面で適切に発揮できる自己管理能力を備えている。

- ・職業生活・社会生活に必要なマナーやルールに沿った行動をとり、自らを律して、責任感をもって行動することができる。
- ・職業生活・社会生活を通じて継続的に学びを続けて成長するために、自ら学びの目標を設定し、自らの行動に気づき、他人の指摘を受け止めて自己成長できる。
- ・職業生活・社会生活に必要な理解力（読む・聞く力）や表現技術（文章表現・口頭表現）などの基本スキルを発揮できる。

②自分を知る力

正課内・正課外の実践体験を省察し、自分の持ち前を発揮して、取り組むことの重要性を理解している。

- ・主体的に調べ、多面的に考え、自ら問いを発して考察できる。
- ・実践実務体験を通して、自分の能力や資質の特徴を捉えることができる。

③社会を知る力

実社会とかかわる就業の実践体験で多様な人と対話ができる。そして、現場の仕事のニーズを自ら働きかけて捉えることの大切さを理解している。

- ・広く社会に目を向けて問題意識を持ち、実社会と自らのキャリアを関連づけて考えることができる。
- ・現代社会の問題を多面的に理解し、人に対する思いやりをもって、建設的に対話や議論ができる。

【総合的実践実務分野】

大学で学んだ知識・スキルを実践実務の場で活用して、チームによる課題解決を実践する能力を育成する学修分野である。

④就業体験からキャリアを考える力

総合的学修体験を通じて、自分の就業力について自ら気づいたことや他人から受けた評価からキャリア

アを考え、自分自身の能力開発の方向性を明確にすることができる。

- ・職業生活・社会生活のあり方を主体的に設計し、自らのキャリアに関する考えをもって、学びを継続することに価値を見出すことができる。
- ・大学やこれまでの学修を通じて学んだ知識・スキル・態度を活かして総合的な課題解決ができる。
- ・実践の場で多様な人と関わりをもって課題解決にすることに主体的にかかわり、成果と画題を明らかにすることができる。
- ・実務実践の体験を通じて自分の能力の現状を理解し、職業生活・社会生活を通じて自らの能力を高める行動をとれる。